

第4回科学技術政策研究所機関評価委員会（第2回会合）議事録

1. 日時 平成22年6月15日（火）10:00～12:00
2. 場所 文部科学省 16F2会議室（中央合同庁舎第7号館東館16階）
3. 議題
 - I. 開会
 - II. 資料確認
 - III. 議事
 - 1) 今期中期計画期間中の活動実績に係る自己評価について
 - 2) 第4回機関評価報告書イメージ（案）について
 - IV. 閉会
4. 出席者

委員 阿部博之委員長、新井紀子委員、家泰弘委員、隅藏康一委員、高橋真理子委員、都河明子委員、吉本陽子委員、覧具博義委員、若杉隆平委員

科学技術政策研究所 和田所長、桑原総務研究官、大橋第1研究グループ客員総括主任研究官、茶山第1・2調査研究グループ総括上席研究官、長野第3調査研究グループ総括上席研究官、奥和田科学技術動向研究センター長、富澤科学技術基盤調査研究室長、岡部総務課長、牧企画課長

オブザーバー 中岡文部科学省科学技術・学術政策局政策課長
5. 議事録

【阿部委員長】 お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。第4回の機関評価委員会第2回を開催させていただきます。

早速ですが、まず、事務局から資料の確認をお願いします。

【牧企画課長】 よろしくお願いいたします。

本日は、機関評価委員会の委員の先生方のうち中村委員がご都合によりご欠席ということでございます。本日、9名の先生方にご出席いただいております。

それからあと、当方の科学技術政策研究所の出席者で異動がございましたので、新たに着任したものを先にご紹介させていただければと思います。

【阿部委員長】 お願いします。

【牧企画課長】 まず、第2研究グループの総括主任研究官の米山茂美でございます。

【米山総括主任研究官】 初めまして、よろしくお願いします。

【牧企画課長】 続きまして、科学技術基盤調査研究室長の富澤宏之でございます。

【富澤室長】 富澤です。よろしくお願いします。

【牧企画課長】 続きまして、総務課長の岡部聡でございます。

【岡部総務課長】 岡部でございます。よろしくお願いいたします。

【牧企画課長】 それから最後に、私、企画課長の牧と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、配付資料でございますけれども、座席表、1枚紙でございます。それから、クリップどめにしてあるほうの資料でございますが、議事次第が1枚紙でございます。それから、配付資料が1枚、それから、委員の皆様方の名簿が1枚でございます。それから、資料1-1ということで横書きのものでございますが、自己評価（総合）というもの。1-2ということで自己評価（各論）という少し分厚いものでございます。それから、資料2ということで報告書のイメージ（案）というものをつけてございます。それから、資料3ということで前回の議事録の（案）でございます。それから、その後ろに1枚紙つけてございますが、前回から今回までの間に委員の先生方からメールでいただきました質問、コメントをつけてございます。それから、前回の資料と参考資料を机上資料ということで紙のファイルに入れてございますので、適宜ご参照いただければと思います。

資料不足等ございましたら事務局までお願いいたします。

【阿部委員長】 どうもありがとうございました。

それでは、早速ですが、議事に入ります。

【若杉委員】 一言、資料に関して補足。

【阿部委員長】 どうぞ。

【若杉委員】 一言補足させていただきたいのですが、委員から寄せられたコメントの中で私の発言が若干誤解されている部分がございます。私自身が第3期基本計画に関して評価しているわけではございません。議事録の49ページをごらんいただくとわかりますように、私自身、阿部会長の下に第3期基本計画の策定に参画したものとして、意義深いものが策定されたと思っております。従って、もし第4期計画の策定の議論の中で、これまでの計画ではうまくいかなかったとの指摘があるのであれば、うまくいかなかったのはどういう理由なのか、問題点がどこにあるのかは、それはきちんと精査することが重要であるということをご指摘したものであります。ご訂正をお願いしたいと思います。

【阿部委員長】 わかりました。特によろしいですね。あと、先生、文章については事務局にご相談して。

【若杉委員】 お任せいたします。

【阿部委員長】 よろしくをお願いします。

早速ですが、議事の中身ですが、1番目、今期中期計画期間中の活動実績に係る自己評価についてということで、資料1-1と資料1-2について説明をいただいて、これは我々が記入するんですね。

【牧企画課長】 はい。

【阿部委員長】 では、説明をお願いします。

【牧企画課長】 先ほど資料の説明のときに、1枚、ちょっとご説明を忘れましたが、A3の大きなものがございます。こちらが今期中期計画の活動を、評価委員の先生方に評価をご記入いただくということで用意させていただいたペーパーでございます。これにつきまして、私どものほうで自己評価ということで、私どもなりに評価をつけてみましたので、そちらをご説明させていただきまして、それを見ながら先生方のコメント等、ご提言を書いていただければと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、資料の1-1、それから、1-2についてご説明を差し上げます。

資料の1-1のほうですけれども、今期中期計画期間中の活動実績、これに関しまして自己評価と書いてございます。目次をちょっとごらんいただきたいのですが、これは、中期計画の目次立てに沿ったような形になっておりまして、最初に、科学技術政策研究所の役割という点。それから2. のところについては、管理運営のところ3点ほど挙げてございます。それから、3. から8. にかけては調査研究の分野といいますか、その中身について、これは中期計画に書かれている軸をもとに整理してございます。

その反対側の面に四角で書いてございますが、自己評価シートにおける評価基準ということで、四角書きしたところがございます。S、A、B、Cというような書き方、これは、評価をするときの参考ということで評価基準という形でつけさせていただきました。

Aというところが、想定したとおり達成、おおむね順調に進捗したというようなところでございまして、それに加えてSというところで行政部局や学術的な点や国際的な面でインパクトを与えたようなものに対してはSというようなもの。それから、一部想定どおり達成できなかったようなものについてはB、全体的に達成できなかったものについてはCというような評価をつけております。

それでは、中身のほうでございますが、総合の評価シートを1枚めくっていただきますと表がございます、左上のほうに「中期計画の記載のポイント」と書いてございます。それから、右側に実績、下側に総合自己評価という、そういう構成でつくらせていただいております。

順序がちょっと逆になりますけども、先に1-1の5ページをごらんいただければと思います。調査研究のほうからご説明差し上げたほうがわかりやすいかと思っておりますので、5ページのところでございますが、左側に中期計画が書いてございまして、右側に実績ということで、個別の研究課題を何点か挙げさせていただいております。個別の研究につきましては、もう一つの資料、資料1-2というのがございますけれども、科学技術システムに係る調査研究のところについては、1-2の8ページから14ページまででございますが、個表をつけてございます。この個表のほうにつきましては、それぞれの研究グループのほうのリーダーにそれぞれ自己評価をつけていただいたものでございます。

この1-1、1-2、ちょっと見比べながらご説明させていただきます。先に資料1-2の8ページのところからご紹介いたしますと、科学技術システムに関する調査研究ということで幾つか課題挙げてございますけれども、そのうちの1つ、世界トップクラス研究拠点調査というのがございますが、こちらにつきましては、左側に実績、右側に自己評価という形で書かせていただいております。この調査のほうでは、トップクラスの研究拠点について、その実態を調べていくというような、競争力を強化するための課題というのを明らかにする調査でございますけれども、右側のところで評価つけてございますが、この成果とそれぞれどのような利用のされ方をしてきたか。文科省の委員会等で報告するなど、いろいろなデータを提供してきたという点を評価してございまして、自己評価としてはおおむね順調に進んだということでAの評価をつけさせていただいております。こういう個表がしばらく続いてまいります。

次の9ページをごらんください。これは、数学研究をテーマにしたものでございますが、こちらについては自己評価をSとつけてございます。これにつきましては、当研究所が出しました数学研究に関する分析をもとに、行政が気づいていなかったような視点を切り出すことができまして、それが行政のほうにもインパクトを与えたというような内容でございます。それでSの評価をつけてございます。

次にまいりまして10ページでございますが、科学技術人材の育成と進路選択というような調査もございます。こちらにつきましては、人材関係、いろいろなデータを私どもで集

めてございまして、総合科学技術会議ですとか文科省等において利用いただいているところでございます。これについてもおおむね順調に進んできたということでAをつけさせていただきます。

続きまして、11ページでございますが、こちら、ポストドクター等博士課程修了者の進路動向等の調査でございますが、こちらにつきましてはSの評価をつけさせていただきました。特にポストドクターの点については、科学技術政策研究上も非常に課題になっているところでございますが、データがなかなかなかったところもございまして、私どもの研究所のほうで悉皆調査、大がかりな調査を行いまして、全体像の平均像をつかむことができたというような調査、貴重なデータを提供しているところでございます。Sという評価を自己評価でつけさせていただきます。

続きまして、12ページでございますが、研究人材の流動性とキャリアパス分析というものでございます。こちらについてもSをつけさせていただきましたが、これは、第3期のフォローアップの調査のときに、1万人近くの研究者を対象にした非常に大規模な調査を実施しまして、貴重なデータを得ることができたということでSをつけさせていただきました。

続きまして、13ページでございます。13ページは、地域クラスターというところで、地域クラスターに関するさまざまな調査、分析を行いまして、データを提供してきたところでございます。こちらについてはAをつけさせていただきます。

続きまして、14ページでございますが、科学技術の状況に係る総合的意識調査、私どもは定点調査という言い方をしてございますけれども、同一集団を対象に継続的に毎年アンケートを行っていくというものでございまして、このような調査は過去に例がない調査ということで、第3期科学技術基本計画の期間中の課題というもの、それから、その変化というものを見ることができる調査ということで、非常に活用されているところだと認識してございます。これもSをつけさせていただきます。

ここままで、先ほどの資料1-1の5ページに戻っていただきまして、これらの個別の課題を見てきたわけですが、中期計画の記載と比べたときにどうなっているかという点で見ております。ここの部分、中期計画のところにおきましては、中長期的な視野から人材、ファンディング・エージェンシー、地域等々の調査研究、データ更新が必要な調査研究、方法論的な調査研究等を実施する。

それから、科学技術のシステム全体をとらえる研究、追加すべき新しい視点の研究、システム改革に関する理論的な研究等を行うというようところが中期計画で書かれている

ところでございます。これに照らした総合評価ということで下側に書いてございますが、中期計画期間中にさまざまな調査結果を出すことができまして、特に人材に関して非常に多くのデータを蓄積しましたし、行政が気づいていない視点を提供するようなもの、それから、定点調査のような新しい調査の企画というのも実施してきたところでございます。

一方で、ファンディング・エージェンシーのあり方というのも中期計画に書かれてございますが、中期計画期間中には、そこまでは手をつけられなかったような課題というのもございます。

あと、個別に関してはかなりの蓄積をしてきたわけでございますが、全体を俯瞰していくという点については、まだまだ強化していく余地があるのではないかと考えておりまして、全体としてはAというような評価をつけさせていただきました。

続きまして、1-1の6ページ、イノベーションのところでございますが、個表のところは15ページからでございます。1-2の15ページ、イノベーションの課題も何点かございまして、個表のほうの15ページでは、日本のイノベーションシステムの現状というところで調査をしておりますが、全国イノベーション調査という大規模調査を実施してございまして、現在、集計の途中段階にあるところでございます。こちらについてはAをつけさせていただきました。

続きまして、16ページでございますが、経済的側面に関する調査研究というところにつきましましては、技術の普及のインパクトというような点を分析した調査がございまして、こちらについてもAをつけさせていただきました。

続きまして、17ページでございますが、民間企業の研究開発システムに関する調査研究というのがございます。民間企業は、日本の研究開発総額の中でも7割負担されておりますので、その調査、分析するわけでございますが、アンケート調査を実施しているところでございます。この民間企業の調査につきましては、以前は文部科学省本省でやっておったんでございますが、2年ほど前から当研究所のほうに移管いたしまして、専門的な視点から調査を実施する体制になったところでございます。

それから、18ページでございますが、産学連携活動の実態に関する基礎調査ということで、こちらについては産学連携活動を概観するためのデータベースの整備等を実施したところでございます。こちらについてもAをつけさせていただきました。

続きまして、19ページでございますが、大学等発ベンチャーの現状と今後の方向性ということで、こちらにつきましてもベンチャー支援に関するさまざまなデータを集めたところ

ろでございます。

それから、20ページでございますが、イノベーションの測定手法、経済分析ということで、特にTFP（全要素生産性）に着目いたしまして、その分析を実施してきたところがございます。こちらについてもAをつけさせていただきました。

行ったり来たりで申しわけございません。総合の方の6ページに戻っていただきますと、イノベーションに関する調査ということで、中期計画と見比べたものがございます。イノベーションに関して総合評価のところにつきましては、計量分析をはじめ、多様な研究を実施してきたところがございますし、文科省本省の調査を移管するなどして、専門的、継続的な観点から調査を実施するような体制も整えてきたところがございます。

イノベーションの測定、なかなか難しいところもございますけれども、政策的な関心も非常に高いところがございますので、さらに充実させていく必要があると認識してございまして、全体としてはAの評価をつけさせていただきました。

続きまして、総合のシートでは7ページ、個表の方では21ページでございます。これは、将来発展する分野・領域の探索に係る調査研究という課題で何点か挙げてございます。

まず、個表21ページの2025年に目指すべきというところにつきましては、当時の内閣府におきましてイノベーション25というのをつくることになったわけがございますが、そのために2025年に目指すべき社会の姿を描く調査研究を実施いたしまして、かなりの部分、貢献できたということでSの評価をつけさせていただきました。

続きまして、22ページでございますが、科学技術予測調査・先端的研究の動向というところがございます。こちらにつきましては、技術予測調査、デルファイ調査につきましては、当研究所でも長い期間やってきたものでございまして、デルファイ調査自体、40年の歴史がございますけれども、ちょうど先週、デルファイ調査等の結果を発表させていただきました。新聞紙上でも取り上げられておりましたけれども、これにつきましては国内外から注目を非常に浴びてございまして、この調査の説明については、方々から要請が寄せられるところがございます、特に海外につきましては要請が多くございまして、アジアを中心でございますが、国際協力をかなりしているところがございます。こちらについてはSをつけさせていただきました。

続きまして、23ページのところでございますが、科学技術動向に関する情報収集・発信というところがございます。私どものほうで「科学技術動向」という冊子をつくり、発信していくという作業をしております。2,000人の専門家の方と協力してやっているところ

でございますが、こちらにつきましては、若干反省も込めましてBをつけさせていただきました。デジタル化ですとか発信の部分につきましては、まだまだ課題があると思いますし、専門家ネットワークの先生方の情報を集めるようなシステムの面については10年前につくりましたもので、システムが若干老朽化しているところもございます、もっと改善の余地があるだろうというようなことがございまして、Bをつけさせていただきました。

総合評価のほうでございます。資料1-1の7ページのところでございますが、中期計画のところでは、動向の把握、それから、予測調査をしっかりとやっていく、高度化していくというような点でございますが、総合自己評価の技術予測調査のところでは、総合科学技術会議と連絡をとりながら実施してきているところでございますし、シナリオライティングの手法など新たな手法を開発したり、今回の調査につきまして、デルファイのほうにつきましても課題設定という面ではいろいろな工夫をどんどん盛り込んでいるところでございます。動向につきましてはシステムの老朽化という面もございます。発信という面については課題もあるところでございますが、総合のところにつきましてはS評価が2つございましたので、全体としてはSをつけさせていただきました。

続きまして、総合の8ページ、個表で言いますと24ページになります。科学技術と社会の包括的な関係に関する調査研究というところでございます。こちらにつきましては、24ページでございますが、科学技術がもたらす倫理的・法的・社会的課題に関する調査研究というところでございまして、こちらにつきましてはBをつけさせていただきましたが、研究倫理に関して調査研究を行ってきたところでございます。行政等における対応の進展の状況変化が非常に大きいような分野でもございまして、結局、報告書の作成まで至らなかったというような例もございます。政策提言を主たる内容とする部分については、なかなか難しい部分もございまして、我々ももっと努力をしていかなければいけないところでございますが、評価としてはBをつけさせていただきました。

続きまして、25ページでございますが、科学技術に関する国民意識に関する調査研究ということで、一般の方の意識調査の部分でございます。こちらにつきましては、最近インターネット調査の導入に取り組んだり、その妥当性の検証等を行ったり、最近毎月ごとの調査もやったりしていますけれども、いろいろ工夫をしてデータを集めているところでございます。こちらにつきましてはAをつけさせていただきました。

続きまして、26ページ、若干毛色が変わりますけれども、私どもの研究所のほうでナイスステップな研究者ということで毎年10人ほどの研究者を、最近のすぐれた業績を上げた

方から選びまして、シンポジウム等も開催するというので、これは科学技術に対する発信に関して私どもも一定の貢献をしているのかなと思ひまして、こちらの中に入れさせていただきます。こちらについてはAをつけさせていただきます。

総合のほうに戻りますと、8ページでございます。総合評価のところでは、調査環境の変化に対応した調査等々の新しい取り組みも行ってまいりまして、ナイスステップな研究者の発信等もやってくる所です。今後とも人文・社会科学の専門家の協力をしっかり得て、調査研究を充実させていくことが必要と考えております。こちらについてはAをつけさせていただきます。

続きまして、総合の9ページ、個表のほうの27ページでございます。個表27ページからですが、第3期の科学技術基本計画のフォローアップの調査研究ということで、私どもの中でプロジェクトチームをつくって、さまざまな調査を行ってきたところでございます。若干これまでと重複してくる場面もございますので、ここはささっとまいりますけれども、27ページのところでは海外の政策動向のレビューを行ったものでございます。

28ページですが、日本の全体状況の把握ということで、マクロデータを用いたインプット・アウトプットの分析等も行いまして、さまざまところで活用いただいたところでございます。

それから、29ページでございますが、公的研究部門のシステム分析ということで、高等教育部門の分析等々を行ってきたところでございます。こちらのあたりはAをつけさせていただきます。

30ページでございますが、科学技術人材に関する分析ということでございます。先ほどとかぶるところはございますが、博士課程修了者の進路等を把握できたという点もございまして、Sをつけさせていただきます。

31ページでございますが、イノベーションシステムの状況分析についても先ほどと重複しますけれども、Aをつけさせていただきます。

それから、32ページでございますが、科学技術が生み出した成果ということで、代表的な成果をまとめるような作業をしたところでございます。こちらについてもAをつけさせていただきます。

それから、33ページでございますが、データの収集調査というのも、このフォローアップの中で行ってきたところでございます。

総合のシートのほうに戻っていただきまして、9ページでございますが、第4期基本計画

策定に際しても適切な役割を果たすことを目指すというところまでございまして、総合自己評価のところでは、こういう大がかりなフォローアップは2回目になるんですけども、振興調整費のお金を得まして、12個の横断的なプロジェクトを動かしましたけれども、行政ニーズを踏まえながらさまざまな調査を出すことができて、一定程度参考資料としていただいたのかなと思っております。

これから第4期ができて、その後、また第4期のフォローアップもあるかと思いますが、これについてもNISTEPが適切に役割を果たしていくことが必要だろうと考えております。

続きまして、総合のほうの10ページでございます。それから、個表のほうは34ページでございます。これは、科学技術政策の成果等を評価していくための調査研究ということで、大学の知財創出の実態という調査、これが34ページでございます。

それから、35ページが世界のICT研究のトレンドの状態というのも行いました。

それから、36ページでございますが、こちらについてはSをつけさせていただきました。こちらは科学計量学の理論・応用分析ということで、論文の分析等については当研究所のおはこ研究というところもございまして、私ども蓄積もかなりございまして、国際機関等にもインパクトのある仕事ができていると思っております。

ちょうど本日付で閣議決定された科学技術白書、白表紙の冊子をお配りしてございますけれども、こちらの中でも36ページからなんですけど、論文成果に見る我が国の状況というようなコーナー、数ページにわたって論文分析が書いてございますけれども、こちらにつきましては当研究所の分析が相当使われているところでございます。

白書には、それ以外にもさまざまな、私がちょっと調べたが限りでは附せんのところ、非常にいっぱい政策研のデータが使われているところでございますけれども、そういう形でやってございます。

それから、このような科学計量学のところにつきましては、36ページ右側下のほうに書いてございますけれども、表にはなかなか出てこない部分ですけども、総合科学技術会議の先生方ですとか、文部科学省のほうからこういうデータ分析ができないかということで、常時対応を求められる場面もございまして、そういう分析結果をご提供しているということをやっております。ということでSをつけさせていただきました。

それから、37ページでございますが、科学技術指標ということで、これは継続的に私どもものほうでやってございますけれども、データを更新していくという作業もやってござい

ます。

総合の方に戻っていただきまして、10ページでございます。今のところでございますが、このような計量学的研究、指標等というのは蓄積した分野でございますので、基礎的なデータを科学技術政策の立案に貢献してきたところでございます。計量学のところにつきましては、日本の中をかなりリードしている部分があるのではないかと評価してございます。

一方と書かせていただきましたが、中期計画の記載では、左側の箱の3番目の丸のところでございますが、個別政策がシステム全体に悪影響を与えていないかというようなことも書かれてございますが、そこまではなかなか、フォローアップ調査で一定程度やっている部分でございますけれども、今後の課題と言えるのかなと思っております。そういう部分もございまして、合わせてAという評価をつけさせていただきました。

ここまで調査研究部門の中身をちょっと説明させていただきましたが、資料ちょっと戻りますけれども、管理運営部門のほうをご説明いたします。

資料1-1のほうでは、2ページ、それから、個表のほうも2ページですね。個表のほうの2ページに研究所運営に関する部分、幾つか書いてございますが、スペースの確保、調査研究、先ほどご紹介しましたネット調査の件ですとか、外部の活用、それから、セキュリティの確保、そういった点。

それから、個表のほうの3ページをごらんいただきますと、科学技術政策分野の人材育成の場というようなことも書いてございますが、当研究所の職員は任期つきの方が多いんですけれども、任期を経た後、一部は当研究所のテニユアポストになるわけですが、それ以外、例えば大学のテニユアポストを獲得されるような方も何名かいらっしゃいますので、科学技術政策分野全体のキャリア形成の場としては一定の貢献をしていると考えております。

それから、文部科学省本省には、文部科学省の調査調整課という調査部門に1人出向させてございます。それから、OECDに関しましては、当研究所のテニユア職員を1名、常時継続的に派遣してございます。今月から配属されました富澤室長もつい最近までOECDのほうに行かれていたところでございます。

それから、個表の方につきましては4ページでございますが、機動的な調査研究体制ということで、先ほどお示ししましたような大きなフォローアップ調査という場合には、横断的なプロジェクトチームを構成するようなことをとっております。それから、民間企業からの任期つきの方ですとか、特別研究員という形で来ていただいているところでござい

す。

それから、5ページでございますが、海外の研究者の受け入れということでございます。特に技術予測関係を中心として、アジア各国からの受け入れを頻繁にやっております。研修内容についても見直しの努力をしているところでございます。

それから、研究者との連携というところ、6ページでございますけれども、外部の専門家から協力を仰ぐために100名の客員研究官、それから、2,000名の専門調査員にご協力いただいております。技術予測調査、デルファイ調査におきましては3,000人以上の専門家の協力を得てやっているところでございます。そういう形で人文・社会科学の先生も含めた広範な協力をいただいているところでございます。

それから、7ページでございますが、研究機関間の協力ということでございます。政策研究大学院大学（GRIPS）とは、連携大学院の協定を結んでおりまして、当所の職員が連携大学院の教授ということで指導しているというのがございます。一橋大学でも当所の職員が特任の准教授に就任して共同研究を実施するというのもございます。

それから、海外との政策研究機関との覚書というのは14カ所結んでございまして、このページの左側の真ん中ちょっと上ぐらいでございますが、今月末にはインドの政策研究機関と覚書を結ぶということで今進めているところでございます。

それから、国際会議のところでございますが、AAASのシンポジウム、それから、日中韓というセミナーもやってございまして、この日中韓を中心に最近ではアジアとの関係の強化ということに力を入れているところでございます。そのようなアジア諸国との強化をしていくことが必要と考えているところでございます。

また、総合のほうに戻りまして、総合のシートの2ページのところでございます。ここで中期計画の記載と見比べるとございまして、中期計画ではリソースの確保等々書いているところでございます。総合自己評価のところでは、予算が非常に厳しい中、外部の資金などの獲得にも努めてきたところでございますし、データ収集の外部委託、インターネット調査の活用など効率的な運営というのも努力してきたところでございます。今後ともやっていく必要があるところでございまして、総合としてはAの評価をつけさせていただきます。

1ページめくっていただきまして、人材の確保等のところでございますが、中期計画のところでは人材育成、機動的な体制、外国人の受け入れ等々を書いているところでございます。あと、行政部局とのコミュニケーションというようにところも書いているところでござ

ざいます。

総合自己評価のところでは、人材の確保・育成については、当研究所において経験を積んだ研究員がテニユアポストを獲得した例なども見られて、一定の貢献を果たしているものと考えられるという点ですとか、それから、行政部局との関係強化というものについては努力をしているところでございます。ただ、文科省職員を対象とした研修というのは、今、残念ながら途絶えているような状況になっております。

それから、外国人の受け入れについては、アジア関係を中心に貢献しているところがございますが、当所に常駐されて留学で来られて研究されたりする方というのは、そういう要望がないこともございまして、受け入れはしてございません。総合評価としてはAをつけさせていただきました。

4ページでございますけども、関係機関との連携というところでございます。こちらにつきましては、GRIPSとの連携ですとか、それから、JSTの研究開発戦略センターというところもございまして、こちらとも緊密な情報交換をしておりますし、機関間の連携も努力をしてきたところでございます。

海外のところにつきましては、海外の有力機関との連携というのを構築しているところございまして、特にアジア関係、協力を深めて、アジア地域の政策研究の発展にも貢献しているのではないかと考えてございまして、総合評価としてはSをつけさせていただきました。

それから、総合評価のところでは最後、飛ばしておりましたところ、1ページのところでございます。科学技術政策研究所の役割というところですが、行政ニーズをとらえた調査研究を行っていく。これは中期計画の記載でございますが、NISTEPとしての独自性や強みを発揮しながら、結節点としての役割を果たしていく。それから、文科省、総合科学技術会議と意思疎通を図るという点。それから、政策研究分野の知の蓄積、拡大に資するような基盤となる中核センターとしての役割。それから、成果の発信に努めるというような点が書いてございます。

評価のところでございます。行政ニーズをとらえたというところでございますが、第3期のフォローアップ調査につきましては、総合科学技術会議の依頼を受けた調査ということもありまして、連携をとりながらやってきたところございまして、基礎データの提供に貢献してきたかなと思います。それから、将来のニーズ、新たな手法等、いろいろチャレンジをしてきたところでございます。

それから、データのなところでは、例えば科学技術指標を毎年発行し、提供していくという点。それから、全国イノベーション調査、民間企業の調査等々、統計データ、統計調査等やっているものについても実施機関として、中核センターとしての存在感というのは一定程度果たしているかなと思います。

ただ、研究成果の発信という点については、課題はまだ多いと思っております。特に海外のプレゼンスをもっと高めていく努力をしていかなきゃいけないのかなと思ってございますので、充実・強化が必要という点をして、全体としてはAということにさせていただきます。

資料1-1と1-2については以上でございますが、1枚紙でお配りしました前回のコメントについては、今、ご紹介したほうがよろしいでしょうかね。

【阿部委員長】 では簡単に。

【牧企画課長】 それでは、私のほうからご紹介させていただきます。

まず、家委員のほうからは、国立教育政策研究所との仕分け、連携はどうなっているかという点でございます。こちら同じように文部科学省の中にある国立の政策研究部門ということで、国立教育政策研究所もこのビルの下のほうにあるわけでございますけれども、大きな違いとしては、教育という視点と科学技術という視点だと思っております。私どもは教育制度そのものを分析しているわけではなくて、科学技術という視点から科学技術人材、例えば人材の面で言えば、特に研究者を育てるような点を中心として調査研究を実施してきているところでございます。ただ、実際、人材の研究などに関しては情報交換をかなりしていく場面が多うございまして、それぞれの研究成果を情報交換したり、調査研究報告書についてもお互い交換しながら、それぞれのアドバンテージを生かしながらやっていくということを努力しているところでございます。

それから、家先生の2番目のご質問のところは、OECDへの派遣のところでございます。OECDの統計について改善を提案するというようなご意見をいただいているところでございます。こちらにつきましては、私どもも努力はしてございまして、特にOECDに派遣した人間については、科学技術統計の国際比較性を高めていくというような部署で、当研究所での経験を生かして活躍いただいています。

それから、そういう統計の国際比較性という面では、国際的なOECDの会議があるんですけども、それに関しては文科省から依頼を受けまして当研究所の研究員が行きまして、適切に調整を図れるように意見を出していくというようなことをしてございます。あと、こ

れまで私どもの調査の中でも人材データの取り方の国際的な違いなども分析してございますので、そういうところもご提供して、比較性を高めるために提案していく努力をしているところでございます。

それから、都河先生のところ、1点目については、先ほど若杉先生がお答えになりましたので2点目のほうでございまして、文部科学省のほうで我が国の中長期を展望した云々の重要政策というような冊子がございましたけれども、こちらについてはNISTEPが作成してもよいのではというようなご意見をいただいているところでございます。こちらにつきましては、科学技術・学術審議会の委員会がございまして、その事務局を文部科学省の科学技術・学術政策局のほうにやっていますところでございます。これは、文部科学省の立場から第4期の科学技術基本計画の策定のためにいろいろ意見をまとめていくというような作業をしたわけでございまして、本省のほうでは委員会の事務局をやって、私どものほうではいろいろな基礎データをご提供するような役割分担を担っているところでございます。その報告書の中、データ集の冊子がございましてけれども、その中に私どもの研究のデータもかなり引用して参考にしていただいているという、そういうデータ提供というもので一定の貢献をしている、そういう役割分担だと理解いただければと思います。

それから、吉本先生からのご質問ですけれども、こういうデータとか分析結果が知られていないという厳しいご指摘をいただいております。私ども情報発信については、こういう指摘も踏まえ反省点なのかなと思っております。これは引き続き努力をしていきたいと考えております。

私からは以上でございます。

【阿部委員長】 ありがとうございます。今、最後のお三方については、事務局としては個別にご説明されていますか。きょう初めて。

【牧企画課長】 きょう初めてです。

【阿部委員長】 そうすると、これでいいかどうか、皆さん、ご意見があるんじゃないかと思いますが、もしどうしてもおかしいということだったら簡単に。よろしいですか。

では、文章の修正等は事務局と個別にやっていただくことをお願いします。

【牧企画課長】 ご相談させていただきます。

【都河委員】 これはどこかに残るんですか。このような形になるとは思っていなかったのです。

【牧企画課長】 これは、資料番号つけていないペーパーでございまして、あくまで

も参考ということで……

【都河委員】 オープンにはされない。

【牧企画課長】 はい。

【阿部委員長】 それでは、今までご説明いただいたことで、A3の用紙に記入をすることが書いてありますが、私、事務的なことで最初にちょっとお伺いしますと、これは、いつまでにやるんですか、締め切り。今やるんですか。

【牧企画課長】 もし今書けるとすれば、今書いていただけるとありがたいのですが、もちろん、ちょっと書き切れない部分があるかと思いますので、返送用の封筒をご用意しますので、ご記入いただいてそれをご返送下さい。

【阿部委員長】 いつまで。

【牧企画課長】 いつまでにしましょうか。1週間ぐらい、もうちょっと。

【和田所長】 いや、1週間とか2週間とか、そんな感じ。

【阿部委員長】 それは決めていただければ。

【和田所長】 きょう、ご説明したので、それ以上はないので。

【牧企画課長】 では、1週間で大丈夫でしょうか。

【阿部委員長】 22日まで。

【和田所長】 記名をお願いします。

【家委員】 電子ファイルを送っていただけるとありがたいんですけど。

【牧企画課長】 わかりました。

【阿部委員長】 有記名ですね。

【牧企画課長】 はい。

【高橋委員】 これ、平均とるんですか。

【阿部委員長】 後どう処理するか。

【和田所長】 もう一回、委員会やりますので。

【阿部委員長】 そうですか。

【牧企画課長】 いただいたコメントなどを踏まえて、報告書の形にまとめていく作業を私どもでやりまして、それをまたごらんいただく、またご指摘いただくという、そういう作業になろうかと思えます。

【阿部委員長】 あと、中身の前に事務的なことで何かご質問ありますか。では、後でお気づきのときにまたご質問していただくとして、内容に入らせていただいでよろしいで

しょうか。

それでは、内容についてコメント、あるいは質疑応答をお願いしたいと思います。どうぞ。

【隅藏委員】 資料1-1の1ページに関してなんですけれども、中核機関としての役割というところで、中期計画の中で、「科学技術政策研究分野の知の蓄積、拡大に資するべく、研究の基盤となる科学技術指標等の統計データを提供する中核センターとしての役割を果たす」ということで、実際、この役割を果たされていると思うんですが、実績のほうでもいろいろなデータを蓄積・提供しているということで、もちろん報告書になっている分はわかるんですけれども、従来からの漠然とした疑問として、例えば国内の大学とか、あるいは大学以外の研究所とか企業などが、報告書になっているところの一段前のデータを新しい分析用に使うといった場合に何らかの手続を踏めば使えるものなのかどうか。もちろんデータの種類とか性質によっては公開できないものとか、NISTEPの中で分析して、何年か後に分析が終わったんで公開するとか、そういうのも仕組みのつくりようによってはあり得ると思うんです。というのは、最近、知財戦略の組織でコモンズというようなものも注目されているところで、持っているデータベースなどもプロジェクトが終わって使わなくなったものは一ところに集めて、別のが分析することができるようにしたほうが共通のプラットフォームができてイノベーションの促進につながるとか、あるいは科学技術政策の分野の研究の促進につながるといったこともあると思うんですけど、まず質問としては、現状でどのようなことになっているかということと、提言としては、そういったことも、もちろん全部のデータをそうすべきだと言っているわけではなくて、適切なものに関しては、そのようにしていったらよろしいのではないかというようなことでございますが、いかがでしょうか。

【阿部委員長】 とりあえず。

【桑原総務研究官】 一番量的に多いのは、いわゆるいろんな意味での質問票調査のデータになるんですけれども、質問票調査のデータについては、私どもの現時点でのやり方は、まず、質問票調査を実施する段階で政策研が使いますという前提で協力をお願いしているので、これから第三者提供もあり得るということであれば、質問段階でそういう断りをちゃんとやるという設計修正をしていかなきゃいけないだろうというのが、まず大前提としてはございます。

実態上、大学の先生方からそういうお問い合わせをいただくケースはあるんですか、そ

ういうはざまにあるものですから、実際は、そういうお問い合わせをいただいて、その内容が私どもにとっても非常に有意義と思われれば、その先生に当所の客員研究官になっていただいて、政策研の人間という身分を使って分析をしていただく。ただし、もちろんデータの個別情報は出さないとか、当然の前提はございますけれども、学会等でご発表いただくのはどうぞ自由にと、こういう運用でやっているのが今の状況でございます。

今後の課題として、今おっしゃるような、まさにデータを提供するというのも課題だと思いますけど、それは、少し前段からきちっと設計をしていかないと、すぐにはちょっとやり切れない部分が残るという感じです。

それから、その他、承認統計とか統計法に基づいて実施しているサーベイ、これは、その他の機関から統計法に基づく手続の開示要請があれば、ルールに基づいて開示させていただきますと、ここはそのようになっております。

【隅藏委員】 了解しました。

【阿部委員長】 少し灰色というか、クエスチョンマークのことがあったら個別にご相談されたらいいんじゃないかと思うんですね。ここはだめだ、ここまではいいとか言ってくれると。

【隅藏委員】 ええ。

【阿部委員長】 一般論だけでなかなか処理できないところもあると思います。

【桑原総務研究官】 そうですね。

【阿部委員長】 よろしくお願いします。

【桑原総務研究官】 現実的問題としては、そういうのにかかわる事務とフォローアップの作業って実は結構大きいので、その作業量が相当ふえてくると、正直申しまして研究業務のほうに影響が出てくるという、ちょっと裏腹な面があるのは事実なんですけれども。

【阿部委員長】 私が少し言い過ぎているのかもしれませんが、どうぞ。

【奥和田センター長】 ごく一部ではございますけれども、データが非常に膨大になりますので、それらを見て、何か別のメッセージや別のご利用の機会がありうると思われるものに関しましては報告書の裏にデータのCD-Rをつけたり、資料編というような形で別途発行させていただいております。そういう分につきましては、ご利用を十分していただけるものだと思っております。

【阿部委員長】 ありがとうございます。どうぞ。

【若杉委員】 たくさんの評価の内容を一度にご説明いただいたので私自身が整理仕切

れていないので、評価をする際ににお伺いしておきたい点について追加的に幾つか質問させていただきたいと思います。

(資料1-2) まず、16ページのイノベーションの経済的側面に関する調査研究ですが、私の個人的な印象では、この間、NISTEPのこの分析に関する質的な水準がかなり向上したのではないかというように私は感じております。また、対外的にも評価を受けている。例えばジャーナルにおける掲載とか、いろんな形で評価を受け始めているのではないかなというふうに思うので、もし何かそういう評価を受けている材料があったら教えていただくと大変ありがたいと思います。評価するときに客観性をもって私なりに見きわめたいというふうに思います。

それから、23ページですけれども、これ、Bという評価をなさっていらっしゃるんですけども、定期的な情報収集・発信、なかなか大変なことなのであり、システムが老朽化しているというご自身の反省が書かれているのですけれども、これを改善できなかった理由とか、これを改良していくときにネックになったことというのは何なんだろうか、それを教えていただきたいというのが2点目です。

それから、次のページ、24ページで、やはりこれもBという評価をなさっていらっしゃる点です。最近、科学技術に関して文系的な側面からの研究がすごく大事なんだということがいろいろな機会に言われるわけです。経済学が文系に入るのかどうかということはさて置いて、ここでお考えになっているのは、もう少し広い立場からの研究への貢献ということだと思います。このアプローチというのはなかなか難しく、どうやったらいいのかというのはよくわからない部分があって、言うはやすしですが、実際にはなかなかうまくいっていないというのが現状だと思います。大変苦勞のある分野への取り組みだと思います。Bという自己評価も踏まえて、これに関してどのようにアプローチされたのか。うまいぐあいにいかなかったなということがあったら教えていただくとありがたいと思います。

【阿部委員長】 では、3つの点について。

【牧企画課長】 1つ目は第1研究グループのほうから。

【大橋客員総括主任研究官】 (資料1-2) 16ページ目、若杉先生には非常に丁寧に見ていただいて感謝しています。確かにここでの研究は、従来のNISTEPの手法とは多少違う新しいものを試みたところがございます。学術ジャーナルへの投稿状況がどういう感じかということですが、まだ投稿しようかという段階でぜひ早急にまとめてご報告できるような形にしたいとは思っております。どうもありがとうございます。

【牧企画課長】 2番目は動向センター、よろしいですか。

【奥和田センター長】 (資料1-2) 23ページ、Bをつけさせていただきました情報収集・発信の件でございますが、私どもは、情報収集のコンテンツといいますか、中身の質のレベルとか、そういうものに関しましてはある程度キープできているというふうには自認しております。また、内容等につきまして、読者とか関係者にアンケートをとりまして、以前より高い評価を受けておりまして、内容についてはBというふうには思っておりません。ただ、この5年間の世の中のシステムの変化というのは非常に激しいものでございます。例えばメールマガジンの発信ですとか、それから、ネットワークのウェブ上の維持管理ですとか、そういうもののあり方が大きく変化したということは、皆様、よくご存じだと思います。あと、情報のやりとりの手段もこの10年といいますか、特に5年ぐらいは非常に変化しております。そういう中に対応し切れていないという面が私どもの反省点でございます。

また、ハードといいますか、いわゆるコンピューター上のシステムの点でも手を入れていないという状態でございます、その辺が、私たちとしては要望に合ったものにはなっていないのではないかとこの反省でございます。それがBの理由でございます。内容は悪いとは思っておりません。

【若杉委員】 それは予算の問題ですか。

【奥和田センター長】 予算もありますし、このようなシステムが頻繁には変えられないという経理上のいろいろな問題もございます。また、私ども自身のウェブ対応といいますか、人間的な面においても充実していないという面もございます。さまざまな要素がございます。

【牧企画課長】 システムのところは、全体をケージで作り込んだシステムを10年ほど前に入れたんです。世の中がブログがどんどん進化しちゃったりしたもので、システム自体がちょっと時代おくれになっちゃったんですが、10年前のものがまだ更新できない状態のままでちょっと。

【若杉委員】 見通しはどうですか。

【牧企画課長】 これは、手をつけなきゃいけないと考えておりまして、ちょっと予算の確保とかも含めて努力していきます。

【若杉委員】 そうですか。

【隅藏委員】 (資料1-2) よろしいですか。1つ、各論になるかもしれませんが、今の点で、科学技術動向とか、こういった情報を見させていただいて非常に参考になって

いるんですが、デジタル化するかどうかというところのお話がありましたので、23ページの中に完全なデジタル化を達成できていないということで、ニーズがあるからという話なんですけど、これは、私の勝手な意見かもしれませんが、もう全部デジタル化するんだというように言ってしまえば、みんなデジタル化か冊子か選んでくださいと言えば、冊子のほうが良いという人もいるかもしれませんが、デジタル化したというように言って、みんなアクセスさせれば、それはそれでみんなアクセスできるというふうに想定されますので、そのほうが予算の削減にもつながるんじゃないかなというふうに勝手に思っておりますけれども。

【奥和田センター長】 私どもとしては、そういう方向に行きたいんですけれども、印刷物を要求されるケースはまだかなりあります。特に言いにくいんですが、行政側は特に印刷物を要求するところもあります。あと、失礼な言い方ですが、年配の方は印刷物をどうしてもと言われることがあります。例えばCDRとかの形で渡しても、あるいはここからダウンロードしてくださいと言っても、印刷物を持ってこいという、そういうご要望もございます。それで対応できていないというところでございます。アンケートをとりましても、やはり印刷物でほしいという意見がまだかなりございまして、完全な移行はできておりません。ただ、やれるところはやっているというところでございます。

【阿部委員長】 とりあえず24ページ。

【牧企画課長】 24ページは、第2調査研究グループからお願いします。

【茶山総括上席研究官】 24ページ、先生からご指摘いただきましたように倫理的・法的・社会的課題、非常に難しいところでもあり、また、実は私自身も文系でございすけれども、文系的側面も考えていかなければならない課題でございす。これまでにどのような取り組みをしてきたかということについて、主として取り組みは私の着任前のことが多いのでございすけれどもご説明いたします。

科学技術の社会的ガバナンス制度に関して提言を行おうということで、実は、これ、さらに前から海外の事例など調べてきておりまして、左側のほうの欄に書いてありますようなヒト胚の取り扱いですとか臓器移植、あるいは医師という1つの科学的な技術的な専門職能集団が社会のコンセンサスづくりに果たすような役割につきまして、海外のほうで取り組まれているような事例をいろいろ調べてきて、それらについて、まず、個別に調査を続けてきました。それらを踏まえて中間的な専門機関というものの設置が科学技術の社会的ガバナンス有効ではないかと考えたわけです。ここで言う中間的専門機関と申しますのは、

科学技術、それから、社会の側、または政策、そういう3つのアクター、プレーヤーの協働の中間の存在であるということです。また、規制と現場との間で運用になるという意味においても中間であるということです。そういった専門的機関が科学技術の社会的ガバナンスに重要であるということで提言をしております。

右側の2つ目の丸に書きましたように、先端科学技術の進展に伴う新たな倫理的・社会的課題に対する対応として意義のある提言を行ったのではないかというふうに思っております。

多少、今後の発展のことで言いますと、4つ目の丸になりますけれども、その「また」以下の文章でございますが、政策提言を主たる内容とする調査研究については、主著者が任期つきで異動したりした場合に提言を深めたり、さらに具体化するために行政部局との意見交換が難しいという面がございます。本人が異動する、あるいは、いずれにせよ行政に対して提言をして、行政部局と意見交換をしたり、具体的にどういうことができるかというところについて、そこまでなかなか深めていけないところが政策提言型の研究の1つの難しいところであるかと思っております。ただ、政策研究所、特に国の同じ建物にいる研究所ならではの役割でもあると思いますので、そこは、これからも難しい面はあるものの積極的に取り組んでいきたいと思っております。

また、研究倫理のほうの研究も行ってまいりました。これにつきましては、研究者倫理、研究者の責任ある活動の遂行を促すような環境整備の制度の問題ということで調査検討を行っております。社会的に新聞報道等でいろいろ取り上げられた問題がホットなときに、私どもの研究者のほうで海外の情報の収集ですとか、学会においてシンポジウムを企画する、あるいはシンポジウムの座長を行うというような形で問題提起を行ってまいりました。そういった活動につきましては、自己評価の3つ目の丸のほうに書いてございますけれども、これは、当時の喫緊の課題であった問題について、そういうシンポジウム等を開催したことで研究者の意識の醸成ですとか、あるいは議論の場の提供、問題提起といった意味では非常に時宜を得た対応であったのではないかと思っております。

ただ、その後、まさに行政もここはホットな問題であり、対応をいたしましたものから、さまざまなルールがつくられて、そういった中で、今、あえて報告書といった形で政策提言ですとか、改めて文書をまとめるところまではどうかということで、そこまでは見送ったということでございます。

これなどは、4つ目の丸に書きましたように、状況の変化が大きい喫緊の課題に対して調

査研究、適切な時期に適切な内容で動いている状態に対して見解を取りまとめるのは難しい面があります。そこで、先ほど申し上げましたように政策研としては、それでもなお取り組んでいくべきところだろうと思っております。

一番最後の丸のほうに書きましたように、今、基本計画の議論におきまして、総合科学技術会議のほうから先日来、パブリックコメントされておりましたような案ですと、こういった倫理的・法的・社会的課題を含めまして、国民参加の問題ですとか、研究情報の発信まで含めまして、広くコミュニケーションの抜本的強化というような取り上げ方をしております。あるいは次期計画では、こういったコミュニケーションといったような視点で大きくくくるようなことも考えながら、それでいて非常に問題多様でもあり、かつ研究者の取り組み方、アプローチによっていろんな展開も考えられますので、そういうことも含めて進めていくといったようなことなどをやっていきたいと思っております。

【阿部委員長】 ありがとうございます。若杉先生。

【若杉委員】 大変丁寧なご説明いただいたんですが、最後の点1つだけ、十分に進捗されない難しい問題があったと思うんですが、何が一番ネックになってみどかしい感じをお持ちになったんでしょうか。

【茶山総括上席研究官】 問題が非常にホットで動いているということが1つあるかと思えます。また、それから。

【若杉委員】 研究者として、この問題に関してもう少し幅広い立場から一度、研究の方向づけを考え直してみる、そういう必要があるということまで含んでお考えなのでしょうか。あるいは、そこはもう大体できていて、実際にやるところで人が足りないとか、そういうことで課題があったということでしょうか。

【茶山総括上席研究官】 どの課題を取り上げてどう取り組んでいくかで、とるべきアプローチも違ってくるのかなと、そこは個々かなり具体的な問題によるかと思えます。ただ、そういう問題に共通する難しさとして、問題自身が動いているということと、あと、政策提言というものは、往々にして状況が動いていることもありますし、一方ですべての政策提言、行政部局が取り上げるわけにもいかないものですから、そこを深く突っ込んで議論していくとか、さらに改善して提案をするには任期の問題等もありまして、そこへの深まりがしにくいというところは、構造的な問題としては多少あるかと思えます。

【若杉委員】 どうもご丁寧にありがとうございました。

【阿部委員長】 ありがとうございます。多分、非常に答えにくいところを答えている

んじゃないかと思うんですけれども、それはともかくとしまして、ほか。どうぞ、家委員。

【家委員】 大変大事なテーマについて広範な調査をしていただいていると思いますけれども、調査研究のテーマの選び方について、その流れについて教えていただきたいんですけれども、具体的なお話で質問したほうが良いと思います。例えば1-2の9ページのところに数学研究についての調査をなさって、これ、大変すばらしい着眼点だと思うんですけれども、今期、数学を調べようという発想は、この研究所の中から出てきたんですか。それとも外から何かそういう要請があってテーマ選択をなさったのか。あるいはテーマを選択した上で、それをどのぐらいの規模で、どれぐらいのコストをかけて調査研究を行うかという、その辺の企画の流れみたいなのを教えていただけると。

【桑原総務研究官】 今の数学の話で具体事例でちょっとお話ししてから、少し一般論でお話ししたいと思うんですけど、数学は、外からやってくれという要請は全くございませんでした。内発的なテーマとして取り上げたということです。たまたま私が2001年に前任の科学技術動向研究センター長になりまして、もともと数学に関心と若干の問題意識があったものですから、そこに光を少し当てることができないかということメンバーに折々言っておりましたら、うち何人かが具体的な、いろんな活動を通じて、例えば北大のグループとディスカッションができるようになったと幾つか取っかかりが出てまいりました。必ずしも初期の段階で所内で大きいテーマとして最初から設定したということではございません。そういう取っかかりを踏まえて、もう老朽化してという話がありましたけれども、先ほどの専門家ネットワークを使って、いろんな分野の人たちに数学についての問いかけをとると。これを割と短期で収集して、データをセットして、それを今度は数学者の方々にお見せして、また次の議論にしていく。こういう努力を積み重ねていって、同時並行で論文の分析ですとか、定量的なデータ分析も始めた。その間に、大体最初のしかりから3年ぐらいかかって、「忘れられた科学-数学」というかなりインパクトを持ったレポートにつながったと。

あの辺の段階では、所としてのテーマの1つという位置づけにしましたが、今申し上げたような形で政策研の研究テーマ、1つは行政のニーズ、あるいは所長のイニシアチブ等々でセットされるトップダウンのテーマと、それから、研究者の好奇心とか関心からスタートしてボトムアップで上がってくるテーマ、両方あります。もちろんボトムアップのテーマもある段階で所長のヒアリング等々を経て、正式なテーマとして認定することになりますので、時期によってそのバランスいろいろですけれども、平均するとバランスは多分半々

ぐらいかなという見当でございます。

外から頼まれていろいろ動き出すケースというのもございまして、私の経験では、数学は自発的でしたけど、もう一つ、論文関係で「サイエンスマップ」、これは、ある外部の先生からこういうことが欲しいというご要請でいろいろ考えて始めた。ですから、そのきっかけになるのも2タイプあるという状況でございます。

【家委員】 ありがとうございます。

【阿部委員長】 ありがとうございます。どうぞ。

【都河委員】 前回の評価と比較して、調査・研究の方向性がしっかり絞られてきたと思います。前回今後の課題として、評価手法・研究手法の確立、グローバル化、海外との連携等を提言されたのですが、大部改善されたと感じます。同様に、NISTEPの使命について、注文を受けて調査するだけでなく、将来の行政ニーズを先取りした、つまり、行政がまだ気づいていない研究をもっと行うべきとの指摘に対して、今回先取り調査研究もされていて、とてもいいなと思っています。

ただ、資料の1-1の6ページにイノベーションに関して、現状報告、民間企業に関する調査、大学発ベンチャーの現状と今後の方向性など、多くの調査報告をされていますが、これらをフィードバックして、企業や大学等に役に立つところまでいっているのかお伺いしたいと思います。

また、自己評価が甘いと思われる点があります。例えば（資料1-1）7ページについて、2025年までがS、予測調査がS、国内の情報収集がBとなっています。そうすると、Sを4点、Bを2点で計算すると、3.3となり、Sにはならないと思います。

【阿部委員長】 では、手短にお答えください。

【牧企画課長】 フィードバックの話。

【阿部委員長】 どこからでもいいですよ。

【長野総括上席研究官】 では、大学等発ベンチャーのほうの調査結果の扱いですけれども、私どもの調査では、大学側に対して書面の調査させていただいて、その結果を踏まえて当該大学発ベンチャーの企業にアンケート調査をさせていただいています。また、ケーススタディー等もさせていただいております。その結果をまとめて報告書にしておりますけれども、もちろん調査にご協力いただいた方には皆さん全部送付させていただいております。その中で報告書をごらんになっていただいて、こちらにメールでこうだったよとか、メールなどでお問い合わせいただいたり、電話でお問い合わせいただいたりするこ

ともよくございます。そういう意味では、調査をさせていただいて、インタビューさせていただいたり、報告書を送らせていただいたりという中で、割と日常的にこちらにメールや電話でいろいろお話しされることはございます。

ただ、先生がおっしゃったように、提言をしてこうしたらいいよとか、そういったところまではまだ私ども模索の状況で、あなたのところではこうしたらいいよというところまでできている状況にはございませんで、また継続的に調査をしながら、逆に大学の方ですか、大学発ベンチャーの経営者の方から教えていただくことも多々ございますので、そういったところも踏まえながら蓄積して、よりよい提言につながるようなことをさせていただければというふうに思っております。

【阿部委員長】 それから。

【牧企画課長】 先ほどのS、S、Bは私がつけたので、私が。先ほどの7ページの評価が甘いんじゃないかというところでございますが。S2つとB1つをどう評価するかというところ、私も悩みましたけども、先ほどもちょっとおっしゃいましたように動向をまとめて世に知らしめていく部分はかなり頑張っているのがあるかなというのに若干引きずられたと思っただけだと思います。Aにします。

【奥和田センター長】 すいません、これ、私どもの自己評価を厳し目にしたという結果でございます。私どもは、全部をAにして平均Aをとろうとは思っておりません。むしろBとかをつけて悪い点をあぶり出して、いい点をもらうためではなくて、ほんとうに良い方向を目指すのが私はいいと思います。全部Aで総合Aをねらうよりも、Sのものをいかにふやすかということのほうが我々は意味があると思います。例えば7ページでは、予測調査とかこういうものはかなり大きなインパクトを与えておまして、そういうものを少しのBのためにAにするのは何かばかげていると私には思われます。その辺は先生方が判断されることでございますので、総合的に判断していただければいいかと思いますが、平均してAをつけるというようなやり方は、私としては正しくないというふうに思っています。

【阿部委員長】 今の先生のお答え残っていますか。

【都河委員】 いいえ。

【阿部委員長】 それじゃ、あと質問を続けたいと思いますが、その前に資料2の説明をちょっと先にしてください。

【牧企画課長】 わかりました。

【阿部委員長】 簡単をお願いします。

【牧企画課長】 それでは、資料2、この後まとめる報告書のイメージということでつくらせていただきました。

目次のほうをごらんいただきますと、1ページ目のところですけども、まず今回の評価、機関評価としては4回目なんですけども、その評価の位置づけとその経過、これは報告書としてよくあるところだと思います。

それから、四角書きで2としたところがございますが、中期計画の記載事項が実施されたかどうか。つまり、きょうご説明いたしました資料の1-1、1-2というところがございますが、それをここの報告書の中にまとめていくような作業をしていこうと思っております。

目次立てといたしましては、1-1で掲げましたような項目ごとにまとめていきたいなと考えているところがございます。

それから、最後に今後の課題や方向性という点についてご指摘をいただいたものをまとめていくという内容でございます。

1枚めくっていただきますと、位置づけ、経過のところは省略しましたけども、イメージですけども、中期計画の記載事項のポイントを書かせていただいて、それに対して実施状況とその評価。今は私どもの自己評価を書いておりますけども、先生方からの評価のシートに記入していただいたものも拝見いたしまして、それをまとめていくような作業を今考えております。それぞれのブロックごとに同様のものをつくっていくというものでございます。これが11まで同じような構成のものが続いていきます。

最後のページ、資料2の12ページをごらんいただければと思いますけども、そこまでは中期計画がどうだったかということなんですけども、その先といたしまして先生方のご意見、ご提言をまとめていく部分が12ページだと考えてございます。大きく2つのブロックに分けましたが、「科学技術政策研究所の役割とその方向性」という点、それから、「機関運営面での課題」という点、大きく2つに分けてございます。

1.のほうの役割と方向性のところについては、論点の例ということで項目だけ書かせていただきましたが、政策研究をどういう方向に持っていくべきか、先ほどありました行政ニーズであったり、新しいものを先取りしていくとか、そのようなところが入ってくるのかなと思っておりますけども、それから、当研究所は国立研究所という直営の組織でございますので、国立研究所として何を取り組んでいくかという視点があるのかなと考えております。それから、今後重視していくべき研究分野というのものもあるのかなと思っております。そういう点もご指摘いただければありがたいかなと思っております。それから、国際的なプレゼ

ンスという論点もあるのかなと思っております。

もちろん、これ以外の論点もあろうかと思えますけども、先生方のご議論を踏まえて書き込んでいきたいと思っております。

以上でございます。

【阿部委員長】 ありがとうございます。それでは、先ほどの続きと資料2を含めてご意見。どうぞ。

【吉本委員】 ちょうど今、資料2の説明をいただいたので、今後の課題、論点に対するお願いになってしまうかもしれないんですけども、国際的プレゼンスの向上というのはぜひ重要視していただきたい項目だなと思ってます。その中で追加コメントとして情報発信に触れさせていただいたんですけども、たしか資料1-1の最初のところでも自己評価で少しコメントされていらっしやいましたけども、少なくとも英文による情報発信というのは必須ではないかなと思ってます。我々も今、情報収集するときに、以前はドイツの研究機関というのはドイツ語でしか出してなかったんですけど、ドイツのシンクタンクですらアブストラクトはほとんどで英語で出るような状況になっていまして、やはり情報がとれるとその研究機関のステータスは高まってきますし、相互やりとりも出てきますので、今、アジアの国の方は結構日本語を学んで日本語で情報をとってくれますけど、やはり日本のプレステージを高めるためには少なくとも全体の情報量の中で何割ぐらいは英語で情報発信していると、これはすごく重要になってくるかなというふうに感じています。

そこはぜひお願いしたいなということと、ちょっと研究テーマに関することなんですけども、論点のところでも今後の方向性というところにもかぶってくるんですけども、科学技術政策研究所さんとしてはやはり先取りをしたものとか予測するもの、それから、ほかの研究所ではなかなかできない定点調査のようなもの、それから、海外の研究所とコラボしたようなもの、これは、科学技術政策研究所さんならではの調査だと思うんですが、そのほかのところでもちょっと素朴な質問なんですけども、イノベーションに関する調査ですとか、産学連携に関する調査ですとかあるんですけども、経済産業省さんですとか、あと内閣府なんかでも似たような調査をされていて、内容を拝見してもそことのすみ分けというんでしょうか、そこら辺が相当重複しているところもあるのかなというふうに感じています。

例えば大学発ベンチャーですとか知財の調査ですと、大学に立った研究がかなりされていますので、そこが経済産業省とかほかの省庁とは違うのかなというふうにはいる

んですけども、そこをすみ分けろということでは全然ないんですけど、かなり重複している、ほかの政府機関もやっているようなところがありますので、そのすみ分けも含めてどこにまさに科学技術政策研究所さんが今後の重点ターゲットを定めていくかというのは重要になってくるのかなというふうに感想として持っています。

【阿部委員長】 どうぞ、研究所側。

【牧企画課長】 大学ベンチャーのすみ分けのところは第3調査研究グループで。

【長野総括上席研究官】 産学連携のほう、私ども第3調査研究グループでやっています。産学連携のほうの調査は、フォローアップ調査の中でやっておりますけれども、その際にもやはり私どもなりの視点ということで、特に大学に入り込んだ形で書面調査、それから、ケーススタディーという形でまとめたというふうに。あと、大学の機関だけではなくて、現場にいる研究者の方がどんなふうに行っているかということにも着目しまして、研究者の視点と大学のマネジメントの視点といった形でまとめたりというような取り組みもしてございます。

【阿部委員長】 元総合科学技術会議にいた立場としますと、NISTEPには例えば文科省の研究所という意識はしないでいろんなことをお願いして、わかりやすく言えば日本の科学技術の未来に関することはほとんどすべてこちらにお願いしているということですので、むしろ私は、文科省の中でいろいろご苦労があるにもかかわらず、こちらが勝手にそういうことをどんどんお願いしたのかもしれないけれども、そこはよくやっていただいたように思っています。もちろん他省庁の固有の調査を奪い取っていただく必要は全くありませんけれども、そういうのがあれば、むしろ、こちらでご利用された上で総合的に調査をご報告いただくことが国の科学政策としては非常にメリットがあったんじゃないかと思っております。若干の私の希望とコメントを申し上げました。

【桑原総務研究官】 データについては、ご回答いただく方の負担をなるべく軽くしなければいけないということがありますので、ある段階になると所要な調整はなされるべきだと思うんですけども、その傍らこういう研究組織が対象をすみ分けちゃうと競争がなくなります。緊張感がなくなるので、ぼうっとしているとだれかに先取りされてしまうという状況はある程度あったほうがいいんじゃないかという気も実感として私はしております。

【新井委員】 私は、昨今の例えば政権交代、事業仕分けというようなところからいろいろな方々がお話をされているのを見ていると、NISTEPのようなきちんとしたデータに基

づいた議論というのはあまり十分に行われていなくて、そのとき限りのご意見が行き交っているなというような印象を強く持っています。

また、その意見の入り方も徐々に、例えば文部科学省もそうですけれども、副大臣が直接ブログのような、熟議というようなのを立ち上げて、国民から直接意見を聞くであるとか、そういう方向性とか、ツイッターであるとか、そのようなところから情報が入りつつあるなということをひしひしと感じているわけですが、私は、そういうときだからこそ政策研さんがエビデンスベースに基づいたきちんとした情報を発信していくことが必要なけれども、その発信の仕方が大部にわたるデータということだけですと国民に届きにくいとか、リテラシーの問題があって、それを読み解くことができない。結果として多いとか少ないとか、これじゃだめじゃないかとか、負けたとか、そういうことはあるかもしれないけど、それ以上のことをうまく読み解けないし、それでどうすればいいのかというシナリオが見えてこないのかえって混乱するというような感じだなということをこの1年間ぐらい大変懸念しています。

失われた数学に関してはタイトルもよかったし、シンポジウムとかのもっていきようもとてもよかったのでプレス発表も多かったように思いますけれども、それ以外のものに関して国民の皆さんが目で見えてわかる状態になかなかないということを感じます。それに比べてアメリカの科学技術系のシンクタンクとかは、例えば21世紀スキルに関してのフラッシュムービーのようなものをおつくりになって、恐怖をあおるというようなこともあるし、やっぱりポストク問題が社会で一番取り上げられたのは「博士が100人いるむら」というショートムービーがユーチューブにありまして、どれだけの人が途中で行方不明になるかとか、そのような厳しさというのがあって問題意識が多くの人に共有されたということがあるので、データをいかに読み解いて、どのように国民に感心を持ってほしいかということを、当然きちんとしたものがあって、もう少しわかりやすい形でも発信されたらどうかなというふうに思うことがあります。

あと、NISTEPの活動については、大学研究者自身がほとんど知らないというようなことがあります。もう少し大学研究者が目につくような場所に定期的にポストをしてほしい。今回こういうデータが出ましたということをご自身のウェブページと報道発表だけじゃなくて、研究者が見ているところにポストをするような方法論をもう少し考えていただきたいなというふうに思いました。多分、この次の中期計画では、政策提言だけじゃなくて、国民における政策の醸成をしていくかということが重要な課題になってくるのかなという

ふうに思っています。

【阿部委員長】 ありがとうございます。すごく重要なことをいろいろご指摘になっています。

【高橋委員】 質問。ここの研究所のシステム部門の責任はどなたが持っておられるんですか。

【桑原総務研究官】 総務課長です。全体は所長ですけども。

【高橋委員】 総務課長なんですね。総務課ってこれを見ると、人事、厚生、文書、会計、物品、営繕と昔ながらのこと、係名が並んでいるんですけども、システムのプロの方というのは総務課長の下に何人いらっしゃるんですか。

【桑原総務研究官】 1人です。それも実は辛うじて1人です。

【高橋委員】 (資料1-1) 管理運営の部門で課題にすら挙がっていないんですね。情報部門で入っているのは情報セキュリティ対策というところだけで、そもそもシステム面の体制が弱過ぎるんだと思いました。10年間も同じシステムで次の更新計画、これからぜひ立てなきゃいけないなんていうのは考えられないですよ。システムなんていうのは、10年たったら更新するのが当たり前で、5年たったら5年後の更新どうしようかと考えていくのが世の中普通です。それができてないというのは体制が弱いので、しかも、それがまずいという問題意識もないというところが大変問題だと思います。

ですから、管理運営のところは何らかのそういうのを入れないと。これは、意識でどうかなる問題じゃないですから、人とお金が要る話ですから、人とお金が必要だって書かないと進まないと思うんですけど。

先ほどから何度も若杉先生が何がネックだったんですかとお聞きくださっているのに、何か精神論的なお答えしかなくて、金と人員の面でこういうことがという明確なお答えがなかったような気がするんですね。研究グループが一生懸命やっていたらっしゃるのはよくわかるんですけども、それを支える体制みたいなことを立て直さないといけないんじゃないのかなと、きょうのお話を聞いていて思いました。

ですから、今のお話の広報のことについてだって、この組織図を見ると企画の中に広報というのが一番下に書いてあるんですけども、これは、やっぱり研究グループ全体の上にあるぐらいの位置づけで広報というのがないと効果的な広報はできないと思いますよ。その辺を管理運営上の課題として少なくとも挙げておくというぐらいはぜひ必要だと思います。

【阿部委員長】 少なくとも高橋委員から書いていただけたら。

【和田所長】 ぜひご指摘をいただいて。

【阿部委員長】 覧具委員、ご発言をお願いします。

【覧具委員】 国内、海外機関との連携、1-1の4ページあたりに記述されていますけど、例えば米国ですとAAASの年次大会でシンポジウム開催されるというような、非常にシステムチックに学協会と国際的には連携されているようですが、国内ではどうでしょうか。実はNISTEPのメンバーの方が例えば物理学会のある委員会に参加して下さって、非常に有用な情報とか意見を言ってく下さるといような、個別の事例を私は知っているんですけど、国内でももう少し学協会のアクティビティーを通じてPRなさるとか、そういう連携、考えておられるようだったら教えていただけるとありがたい。

【桑原総務研究官】 私ども研究員、各自のバックグラウンドに応じて複数の学会メンバーにはなっている人が多い。ただ、それは非常にばらついておりまして、割とまとまっているのは隅藏先生が当事者でいらっしゃいますけど研究・技術計画学会、これは、うちの人たちはほぼ全員が学会員になっております。あとは一部、組織学会ですとか、その他は経済とか、バックグラウンドが物理でしたら物理学会の会員が残っていると、非常に多様になってしまうという構造です。

研究・技術計画学会との関係で言いますと、歴史的には政策研ができたころ、学会もまだ立ち上がって間もない時期だったということでもかなり深くかかわっていた時期もあり、それから、私どもやはり国立研究所ですので、特定の学会のみをサポートするようなことはちょっとよろしくないという議論が出て、少し距離を置くようになった時期とか、今はそのスタンスになっていると思いますけれども、そういう流れできておりまして、あとは研究対象として例えば数学をやったときは数学学会とリンクは持つようになりましてけれども、そういうパターンできておりまして、個々人の興味でかかわっている学会、それから、私どもの研究の内容に応じて議論させていただくケース、それから、ベースラインとしての研究・技術計画学会、そんな感じで。今、先生ご指摘のような踏み込んだ関係というのは必ずしもないという感じです。

【覧具委員】 はい、どうも。

【隅藏委員】 今お話が出ましたんで補足というか、研究・技術計画学会の関係者の側からお話しさせていただきますと、NISTEPの方には年次大会などでたくさんご発表いただいていますし、論文投稿もいただいています。また、理事などの役員としても個人ベース

の形ではありますが、いろんな方にご参画いただいています。また、学会のほうで数年前から学会の活動、あるいは研究業績について非常にすぐれた方に賞を渡すのに、第1回目に桑原総務研究官に、NISTEPを代表してというような趣旨だと思いますけど、受賞いただいているということで、学会の活動の中核をNISTEP全体の皆さんで担っていただいているというような、事務局担当の立場から申し上げましたけれども、そんな連携という状況でございます。

【阿部委員長】 ありがとうございます。ちょっと私からも。これ、お答えにくいことを聞くことになると思いますが、行政ニーズをとらえたという行政ニーズとは何かということになるわけですが、総合科学技術会議にいたときの経験から言いますと、できるだけ公正・公平な立場で調査をお願いしようと心がけましたけれども、中には恣意的な、もう結果をいわば想定した調査をお願いするということがなかったとは言えませんし、特にさっき仕分けの話が出ましたけど、政治のほうからの要求としてはしばしばそういうことがあるわけですが、それを行政ニーズと割り切ってやっていいのかどうか。これは、答えていただかなくてもいいんですが、すごくつらいところですが、その問題をどうしたらいいかというのは何となく残るような気がします。もちろん、できるだけ公正にやっていただいているに違いないわけですが。

それからもう一つ、最後、資料1-1の10ページでおっしゃった行政部局が行う評価への関与や個別政策がシステム全体に与える影響の分析についてはまだ不十分だということですが、これは極めて難しく、科学技術政策研究所がいわばシステムとして独立した調査機関でないからであって、やんわりということはできるかもしれませんが、厳しく言うことはなかなかできない。これは、例えばよかれと思っただけの個別政策が基本計画の方向から全体的に見るとずれてしまうということはあるわけで、そういうことをどうしたらいいか。これは大変難しいことだと思いますが、これも私はどうしたらいいかということについては、必ずやってくださいとは言えませんが、1つのソリューションは、資料2の「今後の課題」のところから皆さんからいろいろないいご提案をいただきましたが、行政にニーズを先取りした研究の実施ということが前回の委員長のメッセージでもあったというお話ですけれども、これはなかなか難しいんですが、こういうところであれば、やはり科学技術政策というのは日本の今後の社会のあり方にも関係してくるわけで、そういうことから見て、こういうことだという先取的なことを調査の結果として多少踏み込んでいただくところで幾らか、先ほどの課題に対する私が勝手に問題視したことに対する答えの一部が

できないかなという気がしております。

そのときに、先ほど国際的プレゼンスを高めるというご意見がありましたけれども、だんだん恣意的になって申しわけないんですが、割にやりやすいのはアメリカとかヨーロッパとかよその国に比べて、保育園がもっとこうあるべきだという論調で今のようなことにあらかじめやんわりとくぎを刺すことができないだろうか。これもそんな生ぬるいことではいけないかもしれんし、うまく当たるかどうかはわからないということがあるわけですが、いずれにしても、さっきのようなことは、私は自分が総合科学技術会議にいた経験から見て非常に難しい問題だなと。

ですから、NISTEPとは全く別な立場で、例えば日本学術会議あたりが科学者の良心に基づいているんな調査、提言をしてくだされればいいんですけど、なかなかそういうところについてない、これは事務能力もあるんですけども、そういうこともありますので、それを期待するだけではだめだと思いますから、難しいかもしれませんが、何とか多少なりとも工夫をお願いしたらと思います。

あとは、今までやってこられたいろんなお仕事は、特に得意なところはまたどんどんブラッシュアップしていただいとということになるのではないかと思います。多少お答えいただきにくいことを申し上げましたが、委員の先生方、補足。研究所の側で何かご発言がありますか。

【和田所長】 阿部先生のご指摘は、ほんとうに考えるところがたくさんございまして、行政ニーズをとらえたという意味では、私どももそうやってきたつもりなんです。もちろん数学の研究とか、それから、例えば若者の科学技術離れとか、地域の科学技術振興とか、そういう意味では、世の中で問題になりそうなことを2、3年前とか数年前に提言して、そういう報告書をいろいろ出してきたという実績はあると思っております。

今、重要なのは、行政ニーズといっても行政が前と違うぞという感じがありまして、要するに行政ニーズといっても一言ではなくて、多分、行政が変わって、行政ニーズも変わっているんじゃないかなということもあります。そういう意味で、報告書を書くだけじゃなくて提言まで求められるんなら、報告書を書いて、データをそろえて、それをもとに議論する体制が行政側にあればそれはそれで結構ですし、行政ニーズ側がさらにグローバルな視点から提言まで求めるとすれば、それにこたえていくのが政策研の役割ではないかなというふうに思っております。その辺は、行政が変わった、また新しい政権、菅政権になりましたけれども、そこが何を求めているかをよく把握して政策研としてやっていくべき

ではないかというふうに思っております。

【阿部委員長】 と同時に政権が間違わないように、そういうところもご配慮を。これ、なかなかむずかしいですけど。

【奥和田センター長】 すいません、資料1-2の21ページ、これがもう行政ニーズに対応した非常に典型的な例でございます。

【阿部委員長】 21ページですか。

【奥和田センター長】 はい。

【牧企画課長】 資料1-2のほうです。個表のほうの21ページ、2025年に目指すべき。

【奥和田センター長】 これは、18年度の首相及びイノベーション担当大臣指示のもとで行われたイノベーション25のために行われたものでございます。結果的には右上にありますように、イノベーション担当大臣みずから、これはよかったというふうに明言してくださるぐらい、明確に行政ニーズに対応したものでございました。

ただし、結果は、政権が変わり、こういう中身についてはあまり注視されないという結果になったということでございます。これは典型的な例です。

ただ、私どもといたしましては、下に書いてございますけれども、このときにやったやり方が非常に新しかったとか、その後の予測調査に非常に生きたとか、そういう面もございますので、そこが我々が研究所たるところだと私は思っております、研究所という看板を掲げているからには、そこに新しい要素なり、新しいやり方なり、そういうものを加えることによって、行政ニーズに対応しながらも、こういうところを開拓していけるのではないかと思います。この辺に我々は活路を見出したいと私どもは思います。

以上です。

【阿部委員長】 よろしく申し上げます。そろそろ時間ですが、よろしいでしょうか。

それでは、宿題を我々いただいたわけですが、事務局から今後のスケジュール等について申し上げます。

【牧企画課長】 事務局でございます。先ほどのA3の紙につきましては、ご記入いただきまして、封筒をご用意しましたので、適宜ご記入ください。電子データをご所望の方は言うていただければ。

【桑原総務研究官】 全員ですね。

【牧企画課長】 では、紙でも電子的なほうでも結構です。では、電子的なものを皆さんにも並行して送っておきますので、1週間でご記入いただければと思います。よろし

くお願いいたします。

それから、今後のスケジュールということですが、次回の予定は今後スケジュール調整させていただければと思います。当初のスケジュールでは7月ごろと書いていたようなんですが、ちょっとおくれぎみになっておりましたので、8月、もしくはそれ以降という可能性もございますが、いずれにしましても、メール等で日程調整させていただきまして、皆さんがご出席できる日にセットしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【阿部委員長】 それでは、本日は有益なご討論ありがとうございました。これにて閉会させていただきます。

— 了 —